

中学地理プリント（書き取り）
日本の資源と産業

名前

得点

/20

- 問1 火山の地下にあるマグマの熱を利用して発電する方法を何という？
- 問2 1985年に先進5か国がドル安・円高へ誘導することに合意した出来事を何という？
- 問3 長野県に位置し、夏に涼しい気候を生かしたレタスなどの生産が盛んな高原地帯はどこ？
- 問4 かつて大阪湾周辺で、繊維製品などの製造を中心に発展した工業を何という？
- 問5 促成栽培が盛んで、京浜や京阪神といった大都市へ野菜を出荷している四国の県はどこ？
- 問6 河川の勾配や水量を利用し、ダムなどで水をためてタービンを回す発電方法を何という？
- 問7 太平洋ベルトにおいて、東京都と神奈川県にまたがる、日本屈指の工業地域を何という？
- 問8 深刻な公害問題を乗り越え、現在は環境技術や資源循環を活かした街づくりに取り組む都市を何という？
- 問9 太陽光や風力のように、自然界で繰り返し利用でき、発電時に二酸化炭素を排出しないものを何という？
- 問10 福岡県に建設され、石炭資源を利用して日本の重化学工業の発展の起点となった製鉄所を何という？
- 問11 稚魚や稚貝を人の手で育ててから海に放流し、成長してから捕獲する手法を何という？
- 問12 自然の海や川で魚を捕るのではなく、人の手で育ててから収穫する手法を何という？
- 問13 日本企業がコスト削減を目的に生産拠点を海外へ移転した結果、国内の産業が衰退してしまう現象を何という？
- 問14 太平洋ベルトを中心に発展し、日本の主要な輸出製品を製造している産業分野を何という？
- 問15 天然の資源を保護しつつ安定した供給を行うために、養殖業と組み合わせて取り組まれる手法を何という？
- 問16 日本企業が海外の工場建設や現地法人設立のために資金を投入することを何という？
- 問17 近郊農業において、収穫した作物を短時間で市場へ届けるために主に用いられる輸送手段は何？
- 問18 温暖な気候を利用して、通常よりも早く野菜を収穫する栽培方法に最も適している地域はどこ？
- 問19 貿易摩擦を解消するために、日本企業が消費地の近くに工場を建設して生産を行うことを何という？
- 問20 関東地方から九州にかけて、日本の製造業が集中している沿岸地域を何という？

答え合わせ・解説

問1	答え 地熱発電	「地熱発電」は、地下から取り出した蒸気でタービンを回転させて電気を作ります。天候や昼夜に左右されず、安定した発電が可能なベースロード電源として注目されています。東北や九州地方を中心に、国立公園内などの地熱資源が豊富な場所です。特に導入されています。
問2	答え ブラザ合意	1985年、アメリカのブラザホテルで開かれたG5において、「ブラザ合意」が成立しました。これにより各国は協調してドル安・円高を促すこととなり、結果として急激な円高が進行しました。
問3	答え 野辺山高原	野辺山高原は長野県南牧村を中心に広がる高原地帯で、夏場の冷涼な気候を最大限に活用した抑制栽培が行われています。特にレタスの生産量は全国的にも非常に多く、大規模な農業経営が展開されています。
問4	答え 綿工業	阪神工業地帯の発展初期において、綿工業は中心的な役割を果たしました。安価な労働力と輸出に適した立地を活かし、大阪は「東洋のマンチエスター」と呼ばれるほど繊維産業で栄えました。
問5	答え 高知県	高知県は太平洋に面しており、冬でも日照時間が長く非常に温暖です。この気候を活かし、ビニールハウスを用いた促成栽培によって、冬から春にかけてナスやピーマンを京浜や京阪神などの大消費地へ大量に出荷しています。
問6	答え 水力発電	「水力発電」は、ダムや落差を利用して水の勢いでタービンを回します。二酸化炭素を排出せず、需要に応じて即座に出力を調整できるため、電力の安定供給において重要な役割を果たしています。古くからあるエネルギー源ですが、技術の進化によりさらなる効率化が進んでいます。
問7	答え 京浜	京浜工業地帯は、重化学工業を中心としてスタートしました。東京港や横浜港などの大きな港を抱え、原料の輸入から完成品の出荷までスムーズに行える利点があります。
問8	答え 環境モデル都市	環境モデル都市とは、低炭素社会を目指して画期的な取り組みを行う都市です。北九州市は、その経験を活かしてリサイクル技術や廃棄物発電などを推進し、世界的な環境都市として再生しました。
問9	答え 再生可能エネルギー	「再生可能エネルギー」は、太陽光、風力、地熱、水力、バイオマスなどが含まれます。これらは発電時に温室効果ガスをほとんど出さないため、地球環境に優しいエネルギーとして期待されています。
問10	答え 八幡製鉄所	八幡製鉄所は、1901年に操業を開始した官営製鉄所です。ここでの成功により、日本は鉄鋼製品を自給できるようになり、重化学工業の土台が築かれました。
問11	答え 栽培漁業	栽培漁業は、人工孵化させた稚魚や稚貝を、ある程度大きくなるまで飼育し、その後海に放流する手法です。自然界で成長した個体を捕獲するため、天然に近い状態で水揚げできるのが特徴です。【概要】マダイやヒラメ、クルマエビなどで盛んに行われており、日本の水産資源の維持と安定供給に大きく貢献しています。
問12	答え 養殖業	養殖業は、海や川に生け簀（いけす）などを設置し、餌を与えて魚介類を育てます。天然の資源量に左右されず、時期を調整して出荷できるため、経済的に非常に重要な産業となっています。
問13	答え 製造業	国内の工場が減ることで、関連する下請け企業への発注が減り、地域の雇用が失われるなどの問題が起きました。これを「産業の空洞化」と呼びます。特に国内のモノづくりを支えてきた製造業において大きな打撃となりました。
問14	答え 自動車工業	自動車工業は、鉄鋼、機械、電気など数多くの関連産業から成り立つ「すそ野の広い産業」です。多くの部品を港に近い工場に組み立て、完成車として世界へ輸出する体制が整っています。
問15	答え 栽培漁業	栽培漁業は、養殖業が生け簀内で最後まで育てるのに対し、自然の海に放流して成長を委ねる点の特徴です。これにより、魚の運動量が増え、より天然に近い状態で収穫できるメリットがあります。
問16	答え 直接投資	「直接投資」とは、単なる証券投資とは異なり、海外で現地生産のための拠点を設けるような経済活動を指します。これにより、現地での雇用創出や技術移転が行われる一方、国内での生産活動が減少するという側面も持ち合わせています。
問17	答え トラック輸送	トラック輸送は、日本の近郊農業において最も一般的な輸送手段です。深夜や早朝の高速道路網を利用して、大都市の市場へ短時間で農産物を運ぶことで、鮮度を保ったまま店頭へ並べることができます。
問18	答え 太平洋側	促成栽培とは、気温の高い地域や施設を利用して、野菜の収穫時期を通常より早める技術です。冬に収穫できることで市場価格が高くなりやすい時期に出荷できるため、農家の収益向上にもつながります。
問19	答え 現地生産	「現地生産」は、製品を売る国の中で工場を運営する方式です。これにより、相手国の雇用を増やし、物流コストを抑えることができます。特に自動車産業では、日本メーカーがアメリカや欧州に大規模な工場を次々と建設しました。
問20	答え 太平洋側	太平洋ベルトと呼ばれるこの地域には、京浜や阪神などの主要な工業地帯が並んでいます。気候が温暖で人口も多く、巨大な消費地と生産地が近接しているため、工業の発展には非常に有利な条件が揃っていました。